

9月15日(金) 研究発表第5室(716)

CELT及び英語学習調査から見る大学生(教養課程)  
の英語学力の諸相に関する継年的研究

A Longitudinal Study of College Students' English Learning  
Ability Viewed from CELT and Researches on Learning of English

青山学院大学 木村松雄

CELT 英語学力 英語学習調査 学習ストラテジー 帰国学生と一般学生

I. 研究目的: 近年多様化しつつある学生の背景、英語学習歴、学習ストラテジーと英語学力との関係を客観的にとらえることで、大学における英語教育の改善及び中・高等学校に於ける英語教育改善への道を探る。

II. 研究仮説: 大学入学直後及び一般教養課程終了時に国際版の同一テストを行い、その正答率、学生の背景、英語学習歴が明らかになる英語調査の結果及び学習ストラテジー分析結果を相互比較検討すれば、当該大学生の英語学力の諸相およびその背景が見えてくるのではないかと。さらにこの手法をもって一般学生、帰国学生、海外生活体験をもつ学生を相互に比較検討すれば、各々の特徴が見えてくるのではないかと。

III. 研究方法:

1. 大学1年生(約300名)の英語学力をListening, Structure, Vocabularyの各視点より測定する。具体的にはCELT ( A Comprehensive English Language Test for Learners of English )のForm B (L:50, S:75, V:75, T:200)を用いて正答率等进行分析する。分析は(1)全体、(2)帰国学生、(3)半年以上の海外生活体験をもつ学生、(4)(2)+(3)別に行う。
2. 同学生に各自の背景及び英語学習歴が明らかになる英語学習調査を上記1.と同時に施行し分析する。
3. 同学生に「言語学習ストラテジー調査」(R.Oxford, 1989)を施行し、直接ストラテジー(記憶、認知、補償)、間接ストラテジー(メタ認知、情意、社会)の各視点より分析し異なる背景をもつ学習者の用いるストラテジーに質的な相違があるか否かを検証する。
4. 同学生が一般教養課程を終了する1年8カ月後に上記1.で使用したCELT(Form B)を再度施行し正答率等进行分析する。

9月15日(金) 研究発表第5室(716)

5. Structureに関しては、先行研究(「基礎的・基本的項目の中高における定着度の実態」：東大教育学部附属英語科)との比較から異なる背景をもつ学習者のおかす誤りに共通性があるか否かを検証する。
6. 上記1.と4.及び2.,3.,5.の比較分析から当該大学生の英語学力に関する特徴を得る。
7. 上記の研究結果から、大学に於ける英語教育の改善及び中・高等学校に於ける英語教育改善のための具体案を提示する。

## 資料1. [基本統計]

## 1年次全体の基本統計表

	合計	I	II	III
平均	128.4185304	29.78913738	54.70607029	43.92332268
標準誤差	1.06770942	0.432250354	0.394509484	0.51294139
中央値(メジアン)	127	29	55	44
最頻値(モード)	126	27	56	45
標準偏差	18.88970793	7.64728942	6.979585265	9.074859564
分散	356.8210658	58.48103547	48.71461047	82.3530761
尖度	0.975846095	-0.092542415	0.139454418	1.524193862
歪度	0.281562086	0.420358898	-0.152344183	-0.264490339
範囲	132	38	44	70
最小	59	11	31	0
最大	191	49	75	70
合計	40195	9324	17123	13748
標本数	313	313	313	313
信頼区間(95.%)	2.09266891	0.847193873	0.773223236	1.005345161

## 2年次全体の基本統計表

	合計	I	II	III
平均	143.1853035	38.47603834	56.8658147	47.84345048
標準誤差	0.90927007	0.329710233	0.381919708	0.464048361
中央値(メジアン)	143	39	57	48
最頻値(モード)	147	39	58	51
標準偏差	16.0866297	5.833169491	6.756849378	8.209853577
分散	258.7796551	34.02586631	45.65501352	67.40169575
尖度	0.205521155	-0.256535187	1.185364279	0.067152483
歪度	0.158418071	-0.304596811	-0.322936697	-0.042492785
範囲	94	31	49	50
最小	96	19	25	19
最大	190	50	74	69
合計	44817	12043	17799	14975
標本数	313	313	313	313
信頼区間(95.%)	1.782133951	0.646219226	0.748547763	0.909516727

9月15日(金) 研究発表第5室(716)

## 資料2. [継年的比較]

93対95

1年次の全体 対 2年次の全体						
1年次全体	受験者数	313	合計	I	II	III
	平均		128.42	29.79	54.71	43.92
	標準偏差		18.89	7.65	6.98	9.07
2年次全体	受験者数	313				
	平均		143.19	38.48	56.87	47.84
	標準偏差		16.09	5.83	6.76	8.21

1年次の帰国 対 2年次の帰国						
1年次帰国	受験者数	12	合計	I	II	III
	平均		165.00	44.75	62.33	57.92
	標準偏差		16.83	3.25	7.36	8.81
2年次帰国	受験者数	12				
	平均		171.83	47.33	65.58	58.92
	標準偏差		14.70	2.42	6.17	9.63

1年次の海外生活者 対 2年次の海外生活者						
1年次海外	受験者数	52	合計	I	II	III
	平均		144.62	39.19	58.42	47.00
	標準偏差		16.16	5.38	6.25	8.81
2年次海外	受験者数	52				
	平均		153.94	44.29	59.00	50.65
	標準偏差		13.48	3.39	7.04	7.74

1年次の帰国+海外 対 2年次の帰国+海外						
1年次の帰国+海外	受験者数	64	合計	I	II	III
	平均		148.44	40.23	59.16	49.05
	標準偏差		18.03	5.48	6.59	9.73
2年次の帰国+海外	受験者数	64				
	平均		157.30	44.86	60.23	52.20
	標準偏差		15.31	3.43	7.31	8.68